

平成29年度小松市立波佐谷小学校 学校評価

めざす児童生徒像

○指導に素直に従い、学習規律、家庭学習の習慣は概ね身に付いている。  
◇主体的に課題や人に関わり追求していく過程で、学び合い高め合う児童をめざす。

※児童生徒達成結果－教員結果・保護者結果

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果 (%)			※差	達成状況の分析	改善策
				教員	児童生徒	保護者			
学校重点項目	学力 学力の個人差縮減	④について、単元テストの平均が、中間評価：前年度比2割上昇、年度末評価：中間評価の1割上昇。	① 基礎学力の個人差縮減に向けて計画や校内体制が適切にとられている						
			② わかりやすい授業になるよう工夫している						
			③ 家の人は家庭学習を毎日頑張っていることを褒めたり励ましたりしてくれる						
			④ 単元テストの結果から（下位児童の）基礎学力向上が見られる						
			集計				保護者-教員		

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果 (%)			※差	達成状況の分析	改善策	
				教員	児童生徒	保護者				
小松市共通重点項目	指導力の向上	②についての肯定的な評価が、中間評価70%以上、年度末80%以上。	① 校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行っている							
			② 学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っている							
			③ 指導主事や大学教員等の専門家が、校内研修の指導のために定期的に来校している							
			④ 教員一人一人が授業研究を伴う校内研修を計画的に実施している							
			⑤ ねらいと伝える相手を明確にして、自分の考えを発表する場を設定している。							
	集計									
	授業	③について肯定的な評価が中間75%以上、年度末86%以上	① 児童生徒が自らが設定する課題や教員から設定される課題を理解して授業に取り組んでいる					児童-教員		
			② 児童生徒は、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている							
			③ 児童生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している							
			④ 児童生徒は、授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っている							
⑤ 一人一人の学びの多様性に応じて、学習の過程における形成的な評価を行い、児童の資質・能力がどのように伸びているかを、児童生徒自身が把握できる										
⑥ 国語科を中心にして、ねらいや付けたい力を児童と共有する手立てを工夫している。										
集計										
学力の定着	学力調査・教科	②に関連した指標として学期末の評価問題で平均正答率を90点以上にする。（国語・算数2教科）	① 学力調査の自校採点の結果は全教職員で共有し、経年的な分析に基づいて、重点目標や具体的な取り組みが設定されている							
			② 学力の重点目標や取り組みは全教職員で共通理解し、目標を達成できるよう取り組みは徹底して行っている							
			③ 学力向上ロードマップにおける各自の役割を教職員が理解し、定期的な検証がなされている							
			④ 学力調査の結果や分析について、近隣等の中学校と成果や課題を共有し、教育課程に関する共通の取組を行っている（小中連携）							
			集計							
	家庭学習	③に関連した指標として家庭学習強化週間の取組の評価項目の時間・集中・提出の達成率の平均が75%以上にする。	① 自分で計画を立てて勉強している。（3年以上）					児童-教員		
			② 予習・復習やテスト勉強などの自学学習において教科書（授業でのノート・資料等）を使いながら学習している（3年生以上）							
			③ 児童生徒の家庭学習の評価・指導を行っている。							
			④ 学年に応じた時間、集中して学習している。							
集計										